

I 序 章

調査の経過と概要 本調査は、奈良市東九条町418-1他における株式会社「菱食」の配送センター新築工事に伴う事前調査として実施したものである。昭和60年2月5日付で奈良市教育委員会文化財課に埋蔵文化財発掘届出書が提出され、これにもとづいて奈良県、奈良市と奈良国立文化財研究所のあいだで協議が開始された。協議の結果、奈良県教育委員会の依頼により、奈良国立文化財研究所が発掘調査を担当することとなった。

開発行為にかかわる範囲は、敷地面積6809.99㎡、建物1633.75㎡である。調査は主に建物部分を中心に約2300㎡の範囲で実施した。調査地にはすでに周囲の擁壁と0.6~1.1mの盛土がなされており、この盛土と旧耕土・床土を除去する目的で、昭和60年4月22日に重機による掘削を開始した。調査期間は、7月25日に終了するまでの約3ヶ月間である。

調査は、当初好天に恵まれ順調に進んだが空撮から測量にかかる6月後半に至って、ほとんど一日おきに降る雨のため、作業が進展しなくなり、遺構面も荒れてしまった。結局空撮は、3度目にしようやく実施できるという有様であった。

検出遺構は、九条条間路と北側溝、南北坪境小路と両側溝、十坪内の区画施設と5期の変遷のわかる建物、など多数であった。とくに32分割宅地の存在を確認した意義は大きい。本調査地が、東堀河で東西に二分された坪の東側にあたり、東堀河に隣接しているため、その東岸の一部が検出できる可能性を考えていたが、結果的には東堀河は少し西へ寄った位置であることがわかった。東堀河に二分された坪の東側の発掘例としては、昭和50年に調査された平城京左京八条三坊九坪が^(註1)ある。この時は、調査範囲が、今回とは逆に東の南北小路寄りに限られているため、堀河と坪との間の施設を確認できていない。今回もまたこの点での解明を果たすことはできなかった。

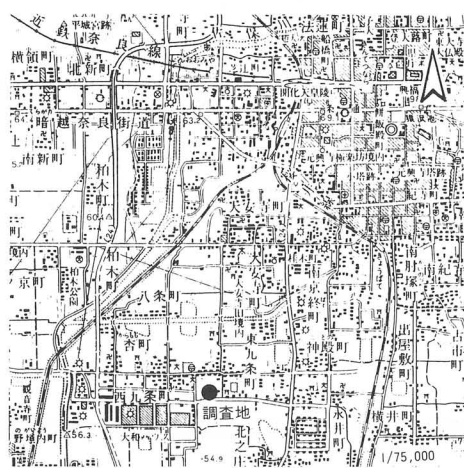


fig. 1 調査地位置図

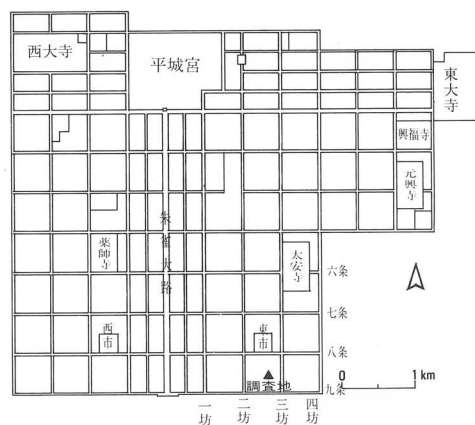


fig. 2 平城京条坊図

発掘調査日誌



1. II区南半の遺構検出



2. SE3615の発掘

fig. 3 発掘風景

- | | | |
|---------|---|---|
| 4.18(木) | 晴 | 発掘区設定のため縄張り。 |
| 4.22(月) | 晴 | 重機による掘削をⅡ区より開始。 |
| 4.24(水) | 晴 | 基準点の振り込みを行う。 |
| 4.30(火) | 晴 | 重機掘削と併行して遺構検出開始。 |
| 5. 1(木) | 晴 | 連休に備え危険防止のため周囲にトラロープを張る。 |
| 5. 8(水) | 晴 | 重機はⅡ区からⅠ区に入る。 |
| 5.10(金) | 曇 | Ⅰ区の重機掘削終了し、Ⅲ区の掘削を開始する。 |
| 5.15(水) | 晴 | 奈良県・菱食と打ち合わせ。 |
| 5.21(火) | 晴 | 辰市幼稚園・小学校に、子供の現場立ち入り禁止の注意を要請。 |
| 5.22(水) | 晴 | S D3701から2彩釉小壺出土。
耕作用小溝が多く、深くなってきたため遺構検出に手間どる。 |
| 6. 6(木) | 晴 | Ⅱ区の第1回目の遺構検出終了。 |
| 6.10(月) | 晴 | Ⅰ区の遺構検出開始。 |
| 6.20(水) | 晴 | 井戸SE3615上層より完形の緑釉小壺出土。 |
| 6.27(木) | 曇 | Ⅰ区の遺構検出終了。写真撮影。 |
| 6.29(土) | 雨 | 現地説明会。大雨の中、約50名。 |
| 7.10(水) | 曇 | 空撮終了。地上写真。 |
| 7.16(火) | 晴 | だめ押し開始。 |
| 7.25(木) | 晴 | 完全終了。撤収。 |

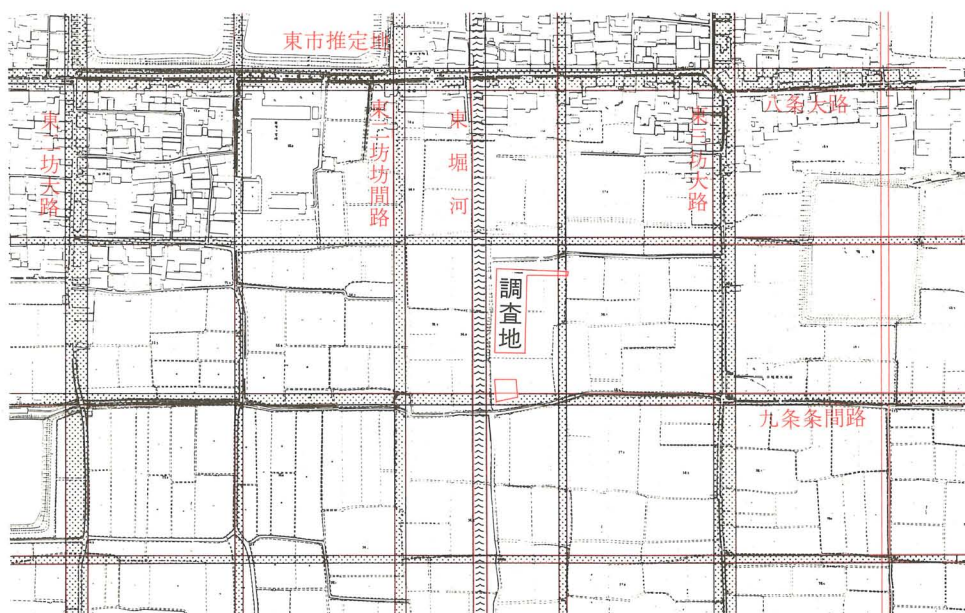


fig. 4 調査地周辺図(昭和37年)